～市長が語る～「わがまちの今・これから」主な質疑応答の要旨

日　時：令和元年５月１９日（日）１０：００～１１：３０
場　所：平川公民館　２階視聴覚室
出席者：市長、企画財政部長、企画課長、財政課長、秘書広報課長　他
参加者：２１名（男性１７名・女性４名）

【市長説明項目】
第１部　わがまちの「今」
第２部　わがまちの「これから」

【主な質疑応答の要旨】
参加者：駅の営業については、駅員がいるにもかかわらず、窓口がないため定期券や切符の購入が不便です。市としても何とかしてください。また、路線バスについては、スタンプラリーなど、バスでどこかに行ってみようと思わせるような取り組みが必要であるとともに、飲酒運転の減少のためバスの利用を促すよう、居酒屋に時刻表を貼るなどの取り組みを進めてください。免許の返納者に対するバスの優待などはとても良い制度だと思います。

市長：意見として伺います。ＪＲの状況としては、横田駅や東横田駅の乗降客は年々減少しており、利用者を増やすということは難しいところです。久留里線沿線の人口減少は顕著であり、ＪＲも色々と工夫をしていますが、経営的な整理も必要となり横田駅や東横田駅は無人駅となりました。合理的な経営のため、窓口がないということも仕方がありません。バスについては、高速バスはいいのですが、日東交通や小湊鉄道など市内のバス路線のほとんどが赤字で、放置しておくと廃線になってしまいますので、年間４千万円から５千万円ほどの補助を出して維持をしてもらっている状況です。利用者を増やすために、公民館祭り等でバスの体験乗車の実施や無料お試し乗車券の広報紙掲載を行ったところ反響がありました。
免許返納者に対する補助については、今年度から取り入れたものです。バスの時

刻表や路線図については、昨年度に公共交通マップを作り全家庭に配布しましたが、利用者は残念ながら増えていません。赤字が増えると、補填し続けるのは難しくなります。高齢者の足という観点からも、課題の一つであると考えています。

参加者：人口が増えているとありますが、増えているのは昭和地区や長浦地区、蔵波地区であり、平岡地区では減少しています。安全パトロールで回っても、見かけるのは高齢者ばかりで子供には会えません。高齢者が亡くなってしまうと農家は担い手がなくなり、耕作放棄地が増え、イノシシなどが問題となります。平岡地区を活性化するにはどのようにしらたよいのでしょうか。

市長：全国的にも同様な課題があります。木更津市でも、人口が増えているのは、金田地区やほたる野、請西などの一部の地域で、矢那や馬来田では減っており、小学校や中学校を統合する場所もあります。袖ケ浦市では統合する学校はありませんが、君津市や富津市、市原市でもすでに統合しています。全国的な人口減少の中、平岡地区だけ人口を増やすのは難しいことです。若い世代は、賑やかな所や交通利便性の高いところに行きたがる傾向があります。

農家の担い手不足の対策としては、集団営農化が必要となりますので、その備えとして、大区画化や、拠点であるライスセンターなどの整備をしてくことが必要です。

イノシシは増えています。本市の昨年のイノシシの捕獲数は５００頭以上で、一昨年の約４００頭に比べ増加しています。檻や罠を設置し捕獲したり、柵の補助を出したりしており、高谷地区では、イノシシの住処となる草が茂ったり不耕作となっている場所をきれいにして減らす試みを行っていますが、イノシシの数はなかなか減らない状況です。

平岡地区の活性化については、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。公共施設はありますが、立派なグラウンドがあっても、利用者が少ない状況です。ドイツ村や農業体験、収穫体験などさまざまな魅力を、市だけでなく、地域の皆さんと作り上げていく必要があると思います。

参加者：水道については、合併をしてかずさ水道広域連合企業団となりました。かずさクリーンシステムや火葬場など、広域化は良いと思いますが、民営化については反対です。仮に民営化になるのであれば、そのメリットを教えてください。

市長：民営化は考えていません。考えていませんので、そのメリットについては、検討していません。法律が変わり民営化ができるとなったことから、そのような意見が出ていますが、その予定はありません。広域行政の例は君津中央病院です。四市で設立して負担金を払っています。ごみは第三セクターのかずさクリーンシステムで焼却場を作り処理をしています。現在、建て替えに係る相談をしているところで、四市のほかに、南房総市、鴨川市、鋸南町の６市１町で新しい枠組みを作り、広域化を継続していきます。火葬場は、建設に向けて長年取り組みましたが、厳しい状況にあったところ、木更津市が建て替えの時期を迎えました。袖ケ浦市と木更津市の２市で一緒に建設を進めようとしていたところ、君津市や富津市も、共同で持っている火葬場が地元との問題により更新ができず、四市で進めるよう話をしているところです。他にも、君津郡市広域市町村圏事務組合というものがあり、福祉施設などを運営しています。広域でやるのは、一市町村でやるよりも、人件費や設備などが効率的に行えるものです。一市単独の小規模施設ですと不可能でも、広域での大規模施設であれば可能となるダイオキシン対策設備などのごみ処理施設が主な例です。メリットがあるものについては広域化でやっていきます。

参加者：空き家の問題が、全国的な課題となっています。本市でも独自の取り組みをしてください。

市長：空き家は市内でも増えてきました。若者の転出などにより、長浦駅前や蔵波台、福王台の住宅地の中でも増えてきています。平成２９年度からの空き家対策基本計画を作りました。当面、５年間の計画で、不動産業の方たちに協力いただき、登録をして次の借り手を探すという制度を作りました。売れなかったり借り手かつかずに残るのは、あまり良い物件ではないことから、賃貸や売買に至らず空き家になってしまうのです。空き家でも、きちんと管理をしてくれればいいのですが、管理をしないので問題となってしまいます。場合によっては罰則や、空家等対策の推進に関する特別措置法もできましたので、手続きを踏んで行政が壊して撤去するなどの方法も考えますが、これは税金を使いますので、考えて進める必要があり、審議会を作りました。基本的には持ち主が何とかしないといけない問題なので、制度の内容等も考えながら進めていきます。